

UM2009 SAC 報告

SAC 委員長 有本信雄

1 SAC 構成メンバー

委員長：有本信雄 (NAOJ)、副委員長：市川隆 (東北大学)

台内委員：青木和光、臼田知史、高遠徳尚、田村元秀、浜名崇、山下卓也

台外委員：伊藤洋一(神戸大学)、太田耕司、菅井肇(京都大学)、本原顕太郎 (東京大学)

川端弘治、吉田道利 (広島大学)、松原英雄 (JAXA/ISAS)

2 2009 年の SAC の主な活動

- ・ ほぼ月 1 回のペースで委員会を開催、以下のような議論・検討を行った。

Subaru/Gemini 京都会議、WF MOS 交渉の問題点、

FMOS に関する UK との協力関係、SEEDS 観測開始の判断、

ALMA との連携、フィルター/装置持込手順の承認 等

- ・ 7 月は東北大学で委員会を開催し、院生との意見交換も行い好評だった。

- ・ すばる 2020 年への展望

キャッチフレーズは「天・地・人」(スペースと地上望遠鏡との連携、人的リソースの活用・育成を柱に)。

ALMA, SPICA, TMT とすばるの連携、大学院教育との連携、アジア諸国との連携、アウトリーチの充実を目指す

3 院生枠創設の提言

どうやってユーザー層を拡大し、若いユーザーを育成するか？

- ・ 新しい装置を立ち上げる
- ・ プロポーザルの書き方の出張指導
- ・ 院生の観測を促進するために院生枠(10 夜/セメスタ程度)の創設を検討する。

4 戦略枠時間の上限(公募時間の 25%)の緩和を検討すべきかどうか？

公募時間の今後の見通しは

SEEDS 戦略枠 (S09B~S14B 120 夜)

FMOS 戦略枠 (S11B~S16A 280 夜? +GT 20 夜)

HSC 戦略枠 (S12B~S17A 300 夜? +GT 20 夜)

LGS-AO GT (S10B~S12A 20 夜)

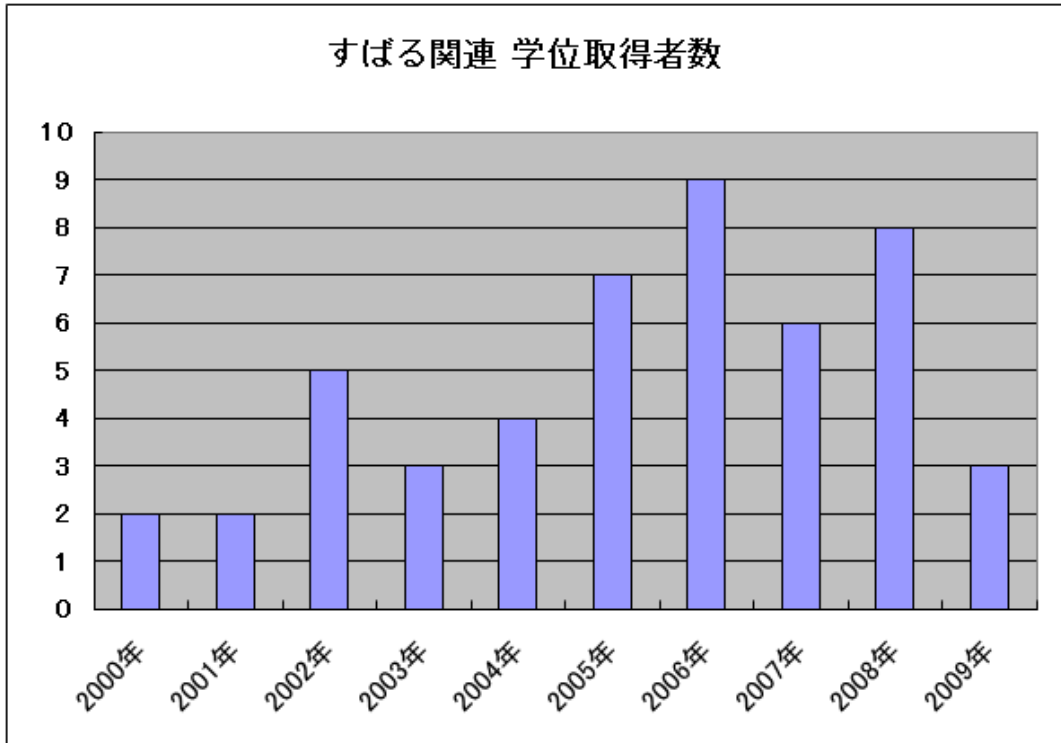
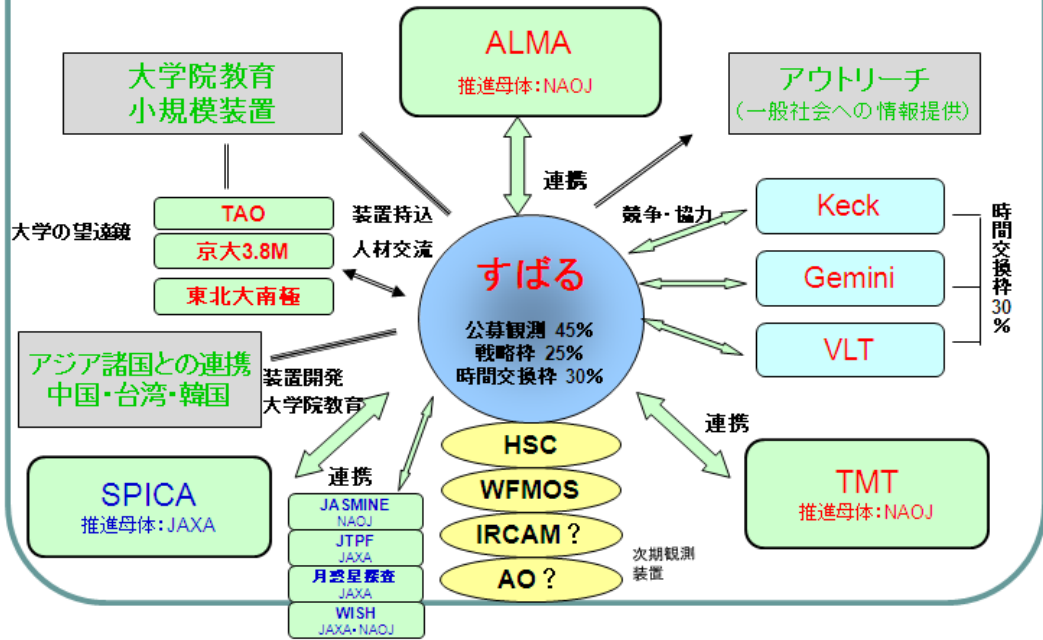
望遠鏡改修 (S10A~S11B? 240 夜程度) 等で非常に厳しい状況。

SAC としては、改修期間を除いては 25%上限を維持し、個別共同利用を守るという考えでいる。

5 院生枠の創設と戦略枠時間の上限については、UM 最終日での議論の様子を見て、これから SAC で検討する。

2020年へのすばるの戦略から

光赤外専門委員会への提言
 --2020年へのすばるの戦略“天・地・人”-- すばる小委員会



過去十年間のすばる望遠鏡による国内の学位取得者数